



ASEAN諸国と比較したベトナム市場参入機会の優位性に関する経済考察レポート (2025~2030年見通し)

■ はじめに

- 2025年から2030年にかけてのベトナム市場及びASEAN諸国(インドネシア、フィリピン、タイ)における経済展望

■ ベトナム市場の成長ポテンシャル

- マクロ経済データの比較: GDP成長率と外国直接投資(FDI)、平均所得、人口、貿易額等
 - 2020年から2024年のデータ及び2030年までの予測データ
- インドネシア、フィリピン、タイとの成長率比較
 - ベトナムの経済成長率がインドネシアやフィリピン、タイよりも高い理由
 - ベトナム市場の成長が将来的にどのように拡大するか: 成熟市場タイとの比較

■ ベトナム市場の特徴

- 親日国としての文化的背景と日本企業の優遇環境
 - 日本とベトナムの外交・経済関係
 - 日本企業がベトナムに進出する際の文化的優位性

- 中間層の拡大と消費市場の急成長
 - 中間層人口の増加と購買力の変化
 - 消費者行動の変化と市場ニーズ
- 人件費の競争力と労働市場
 - 4カ国における日系企業事業方針、年収、法人税、可処分所得成長率
 - 労働市場の特性と新たな人材供給の可能性

■ ASEAN諸国との比較からベトナムの有望な成長業界とセグメントの成長性

- 再生可能エネルギー市場の急成長
 - PDP8における電源構成の開発目標(2022年～2050年)
 - 政府の再生可能エネルギー政策と投資動向
- 物流・倉庫業: 冷蔵冷凍設備の需要拡大
 - 食品・医薬品業界における冷蔵物流の重要性
 - ベトナム国内の物流インフラの現状と成長

■ 半導体産業の拡大

- 半導体製造と関連技術の現状
- ベトナムの半導体産業における将来性

- **その他注目の成長産業**

- 加工食品・飲食店業界
- 日用消費財、小売(EC含む)、アパレル
- 医療・製薬業界の成長性

■ ベトナムにおける政治的安定性とビジネス環境

- **政治体制の比較:ベトナム・フィリピン・インドネシア・タイ**
- **共産党政権下の安定した政治環境**
 - ベトナムにおける政治安定性と投資家にとってのメリット
 - 政府の経済政策とビジネス支援の動向
- **法規制の透明性と外国企業へのアクセス**
 - 外資規制の緩和と日本企業の参入しやすさ
 - 法律の整備と企業活動への影響

■ ASEAN諸国との比較

- **インドネシア、及びフィリピン市場との比較**
 - 経済成長の速度や人口動態の違い、ビジネス環境と外資規制の違い
- **タイ市場の成熟度とベトナム市場の優位性**
 - タイ経済の成熟と新規ビジネスの可能性
 - ベトナム市場の柔軟性と新興市場としての魅力

■ 外資規制と法的枠組みの比較

- **外資規制・優遇措置の現状と比較:ベトナム・インドネシア・フィリピン・タイ**
 - 外資企業への規制内容と特典
- **日本企業にとって参入しやすい法制度**
 - 日本企業にとって有利な法的環境の具体例
 - 日本企業のベトナム市場参入時の必要手続き

■ なぜこのタイミングでベトナムなのか？

- **2025年から2030年にかけてのベトナム市場の動向**
 - 今後の経済成長に伴う市場変化、新たな政策と投資機会
 - 今後のベトナム市場発展余地の拡大

■ 結論

- **ASEAN諸国と比較したベトナム市場参入機会の優位性**
- **なぜインドネシア、フィリピン、タイではなくベトナム市場参入なのかについてのまとめ**

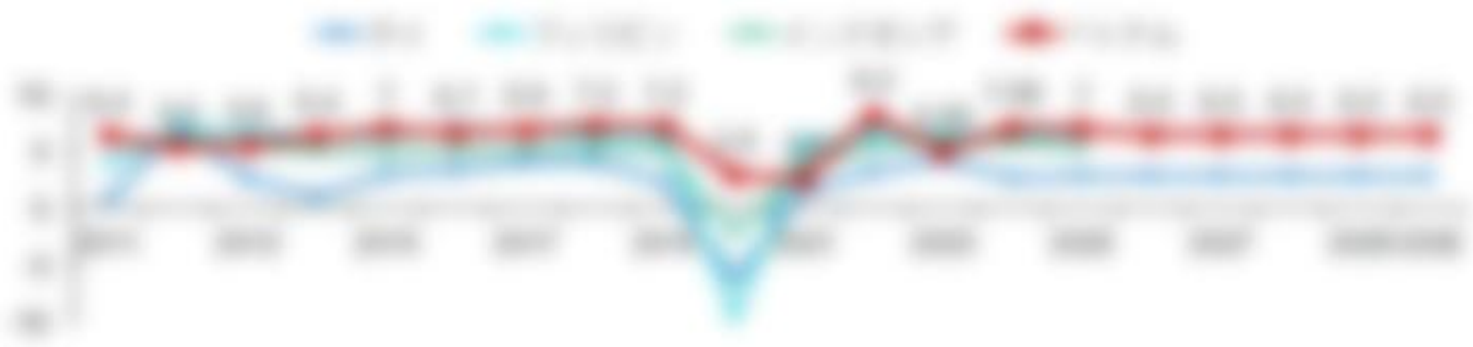
ベトナムの経済成長率がインドネシアやフィリピン、タイよりも高い理由: 輸出競争力、外国直接投資、労働力、地政学的位置



Sample

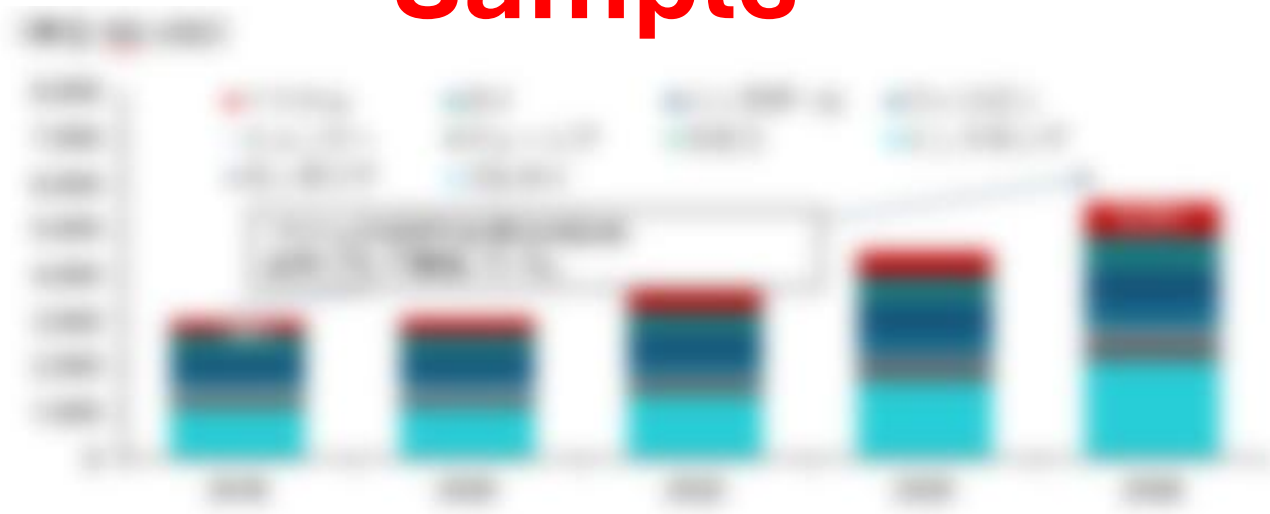
ASEAN諸国の中で、ベトナムはGDP成長率が最も高く情勢が安定している国である。

ベトナム及びインドネシア、フィリピン、タイとのGDP成長率の推移



ASEAN諸国の国内総生産(GDP)

Sample



ベトナムはコスト面での優位性と国内の潜在的な消費市場により、日本の投資家にとって引き続き魅力的な投資先となっている。

ASEAN4力国における日系企業事業方針、年収、法人税、可処分所得成長率

*2023 年の平均可処分所得:

1. 全国: 496万VND
2. ハノイ: 688万VND
3. ホーチミン市: 652万VND

	2024年または2025年に事業拡大を予定している日本企業の割合	2024年の労働者の平均年収	2024年の標準法人税	可処分所得の年平均成長率(CAGR) 予測 2023年 - 2030年
Vietnam 				
Malaysia 				
Indonesia 				
Philippines 				
Thailand 				

Sample

PDP8の修正には、新たに原子力発電の導入といくつかの電源の発電容量の増減が含まれており、具体的な分析は後ほど報告書で行う。

PDP8改定版における電源構成の開発目標(2025年～2050年)



ベトナムの経済成長率がインドネシアやフィリピン、タイよりも高い理由:4カ国の強みと課題

	強み	課題
ベトナム 	Sample	
インドネシア 		
フィリピン 		
タイ 		

出所: ONE-VALUEにて作成